

受付 No.	申請日	英語論文タイトル (仮)	論文趣旨	HP用著者※	データ種類	データ範囲	年次FUデータ	提供日	状況	最終状況確認日
1	2016/8/8	Comparison of CTO-PCI outcomes between the National and the International Patient Cohorts: Analysis of the Japanese CTO “Expert” Registry	Japanese CTO expert が2014年（分析可能なら2015年も）に行ったPCIの手技急性期治療結果を国内と国外症例で比較、検討する。具体的には同時期の国内、国外での登録完了（Core Lab 認定）症例を対象に結果を比較、検討する。	佐藤 孝宏 埼玉石心会病院 CA: 山根 正久	EDCデータのみ	2014～2015 追加 2014～2016	なし	2016/10/11 追加 2019/7/9	現在原稿は佐藤>>山根に回り校正中です。	2018/8/9
2	2016/8/10	Impact of crossing strategy on guide wire crossing time in retrograde PCI for CTO	GW通過時間について細かく検討された論文はない。 本レジストリーでは、提出されたDICOMファイルに時間的データが記録されており、GW通過までに要した総時間だけでなく、使用されたGWやGW crossing techniqueがGW通過時間に与える影響について検討したい。	那須 賢哉 豊橋ハートセンター	EDC+web上での 画像閲覧	2014～2015	なし	2016/10/11	いただいたデータは、解析に必要なデータの欠落が多く、解析を中断している。 今のところ、再解析の予定もデータ自体が古くなっているため、予定なし	2018/7/22
3	2016/8/10	Impact of crossing strategy on guide wire crossing time in antegrade PCI for CTO	GWの通過時間に関する論文は、細かく検討されたものが少ない。 本レジストリーでは、提出されたDICOMファイルには時間的データが記録されており、GW通過までに要した総時間だけでなく、各手技（例：シングルワイヤー、パラレルワイヤー・・・など）に要した時間、その手技時間に与えた因子の検討が可能であると考えられる。今後、プラズマワイヤーの評価を行う場合にも、現在の手技方法での評価が重要になると考えられる。	那須 賢哉 豊橋ハートセンター	EDC+web上での 画像閲覧	2014～2015	なし	2016/10/11	いただいたデータは、解析に必要なデータの欠落が多く、解析を中断している。 今のところ、再解析の予定もデータ自体が古くなっているため、予定なし	2018/7/22
4	2016/9/2	Comparison of percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion outcome according to operator experience: analysis of antegrade approach after retrograde failed	Comparison of percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion outcome according to operator experience from the Japanese retrograde summit registry.Habara M, et.al Catheter Cardiovasc Interv. 2016 May;87(6):1027-35.のSub解析ではExperienced operatorとNon expert operatorの違いはRetrograde approach failure後のAntegrade approachの成功率であった。Expert registryおよびRetrograde summit general registryのdataを使用し、Retrograde approach failure後のAntegrade approachの成功率・手技の詳細の違いなどを検討する。	松野 俊介 心臓血管研究所付属病院 CA: 土金 悦夫	EDCデータのみ	2014～2015 追加 2014～2016	なし	2016/10/11 追加 2018/8/31	まだ解析の段階で、論文執筆進んでいない。（2018/07/20） →豊橋HC・羽原先生から、心臓血管研究所付属病院 松野先生に引き継ぎ	2018/8/31
5	2016/9/2	Impact of operator volume on percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion.	年間50例以上のCTO-PCIを施行している術者と年間50例以下の術者との成功率・手技詳細・合併症率・造影剤量・放射線量などを比較検討する。 一般的術者とExpert術者との違いを明らかにすることにより、一般的術者がどのような点をTrainingすればよいかを論ずる。 Non-Expert と Expert が共通してよい成績をおさめることのできる患者層とそうでない患者層のちがいについて検討する。	羽原 真人 豊橋ハートセンター CA: 土金 悦夫	EDCデータのみ	2014～2015	なし	2016/10/11	新たにRef.No 15として申請 欠番とする	
6	2017/3/8	Mid-term outcome of recanalization for coronary chronic total occlusion analyzed by Japanese Expert registry data	CTOの成功、不成功の有無は生命予後に関与することが報告されており、良好な初期成績を維持したExpert registryにおけるCTO治療の2年フォローアップでの臨床評価を行う。	山本 真功 豊橋ハートセンター CA: 土金 悦夫	EDCデータのみ	未定	2年後まで	未提供	データの範囲未定	

受付 No.	申請日	英語論文タイトル (仮)	論文趣旨	HP用著者※	データ種類	データ範囲	年次FUデータ	提供日	状況	最終状況確認日
7	2017/3/8	Effectiveness of percutaneous coronary intervention in patients with each classification of chronic kidney disease	慢性腎臓病患者における、慢性完全閉塞病変に対する冠動脈インターベンションによる治療は、造影剤使用に伴う腎不全の増悪、併存する合併症のため治療効果が限定されることが問題となっている。慢性腎臓病患者を層別化したCTO治療成績の比較検討は少ない。熟練した術者による良好な成績が期待されるexpert registryのデータを用いて、慢性腎臓病患者を層別化した群での短期、および中長期の治療効果を評価すること。	志村 徹郎 豊橋ハートセンター CA: 土金 悦夫	EDCデータのみ	未定	2年後まで	未提供	データの範囲未定	
8	2017/3/8	Treatment effect of coronary chronic total occlusion in elderly patients: insights from Japanese expert registry	75歳、80歳以上の患者を対象に、安定している慢性完全閉塞病変に対する冠動脈インターベンションによる治療効果は、議論の余地がある。また、高齢者の冠動脈病変は進行しており、治療の難易度も高く、成功率が低くなり合併症リスクが高まる懸念もある。熟練した術者による良好な成績が期待されるexpert registryのデータを使用して、高齢者に対する短期、および中長期の治療効果を評価すること。	加賀瀬 藍 豊橋ハートセンター CA: 土金 悦夫	EDCデータのみ	未定	2年後まで	未提供	データの範囲未定	
9	2017/3/8	Comparative data between diabetes and non-diabetes patients after recanalization of coronary chronic total occlusion from Japanese multicenter registry	糖尿病患者における、慢性完全閉塞病変に対する冠動脈インターベンションによる治療は、非糖尿病患者に比較して再狭窄率が高く、治療効果が限定されることが問題となっている。薬剤溶出性ステントを使用して、熟練した術者による良好な成績が期待されるexpert registryのデータを用いて、糖尿病と非糖尿病患者に対する短期、および中長期の治療効果を評価すること。	加納 誠士 豊橋ハートセンター CA: 土金 悦夫	EDCデータのみ	未定	2年後まで	未提供	データの範囲未定	
10	2017/5/15	－	CTO手技の初期成功率は、近年の両方向性アプローチやガイドワイヤー開発により飛躍的に上昇しており、本邦でのCTO初期成功率は90％程度を維持している。閉塞部を30分以内にガイドワイヤーが通過するかを判定するJ-CTO scoreという手技成功を予測するモデルが存在するが、手技の安定化と技術向上が発達した現状を考慮したCTO手技成功に関する予測モデルの更新が必要と考えられる。本研究では、習熟した術者のみを対象としたCTO Expert registryのデータから、新しいCTO初期成功を予測するモデルを作成する。	山本 真功 豊橋ハートセンター CA: 土金 悦夫	EDC + DICOM データ ※DICOMデータは提供せず	2014～2015	なし	2017/6/1	若干の失念もしており、少しずつ、取り掛かりたいと思います。	2018/8/10
11	2017/5/24	The comparison of initial outcome of CTO-PCI for native coronary artery in the patients with and without previous CABG	Expert CTO registryにおいてCABG既往歴のある症例とない症例でのCTO-PCIの初期臨床成績の比較検討	鈴木 頼快 名古屋ハートセンター CA: 土金 悦夫	EDC + web上での 画像閲覧	2014～2015 追加 2014～2016 追加 2014～2017	なし	2017/6/16 追加 2017/8/4 追加 2019/7/5	解析は概ね終了しており、論文の内容を検討中	2018/7/20
12	2017/6/4	Effect of pre-procedural CT on CTO PCI.	現在retrograde summit registryでCTO PCI に対する術前CTでbend CTOに対して有用であることを解析、投稿中である。本expert registryではさらにCTが普及していることと、expert operatorのほうがCT利用が徹底していると考えられるため同様の解析を行うことでより有用性が証明できると考えた。	下地 顕一郎 済生会宇都宮病院	EDCデータのみ	2014～2015 追加 2014～2016	なし	2017/6/10	取り下げ	2019/3/11

受付 No.	申請日	英語論文タイトル (仮)	論文趣旨	HP用著者※	データ種類	データ範囲	年次FUデータ	提供日	状況	最終状況確認日
13	2017/6/11	Impact of repeat PCI-CTO following previously failed attempt : analysis of the Japanese CTO Expert Registry	Japanese CTO expert registry に参加している医師は、不成功例の再PCIを施行する機会も多い(2016年19%程度、2012-13 retrograde summit registryは10%)。初回治療病変と再治療病変の背景、手技、成功率、合併症等を比較検討し、その特徴とExpert operatorが再治療を行う妥当性を検討する。	関口 誠 深谷赤十字病院	EDCデータのみ	2014～2016	なし	2017/6/14 2016症例については規約変更が条件→ 2017/7/24承認 追加 (2016症例) 2017/8/4	【成果公表完了】 ・Euro PCRポスター発表 (2018/5/22) ・CVIT2018 (2018/8/2) ・論文：Catheterization and Cardiovascular Intervention, 2019; 1–9	
14	2017/7/3	Comparison of procedural and mid-term outcomes of CTO-PCI between de novo lesions and in-stent occlusions :Results from the Japanese CTO Expert Registry	Japanese expert operatorによるde novo lesion群とin-stent occlusion群に対するCTO-PCIで、手技内容(通過したワイヤーや順行性成功率、手技時間等の差異)や血行再建後の中期成績を比較検討する。	丹 通直 時計台記念病院 CA: 五十嵐 康己	EDC + web上での 画像閲覧	2014～2016	なし	2017/8/4	まだ必要データの入力が全てできておらず解析に入れておりません。(2018/8/9) →取り下げ (関口先生によりサブ解析予定)	2019/7/22
15	2017/6/22	Impact of operator volume on percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion.	年間50例以上のCTO-PCIを施行している術者と年間50例以下の術者との成功率・手技詳細・合併症率・造影剤量・放射線量などを比較検討する。 一般的術者とExpert術者との違いを明らかにすることにより、一般的術者がどのような点をTrainingすればよいかを論ずる。 Non-Expert と Expert が共通してよい成績をおさめることのできる患者層とそうでない患者層のちがいについて検討する。	羽原 真人 豊橋ハートセンター CA: 土金 悦夫	EDCデータのみ	2015～2016	なし	2017/8/21	まだ解析の段階で、論文執筆進んでいない。	2018/7/20
16	2017/11/4	Clinical prediction score of guidewire crossing through collateral channel in retrograde procedure for chronic total occlusion percutaneous coronary intervention.	Collateral channelの解剖に基づいたscoringはEuro CTO clubから提唱されたものが知られている。近年では、Epicardial channelとそれ以外のchannelの成功率、安全性の検討や (Outcomes of the retrograde approach through epicardial versus non-epicardial collaterals in chronic total occlusion percutaneous coronary intervention. Cardiovasc Revasc Med. 2017 Sep;18(6):393-398) 、Epicardial channelでのscoringが検討されている (Epicardial collateral channel for retrograded recanalization of chronic total occlusion percutaneous coronary intervention: Predictors of failure and procedural outcome. J Interv Cardiol. 2017 Sep 19.) 。実際の手技においてCollateral channel使用適応を判断する因子は数多くあるが、それらを検討してwire通過に関わる強い予測因子を選択し、臨床scoringツールとして提案する。	永松 航 北摂総合病院	EDC + DICOM データ	2016のみ	なし	2017/11/27 DICOMデータは厳選した症例のみダウンロードしてもらった。 DL費用は研究持ち、HDDは実費を永松先生に負担してもらった。	【成果公表完了】 論文： Eruointervention Predicting Successful Guidewire Crossing via Collateral Channel at Retrograde Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion. The J-Channel Score as a Difficulty Estimating Tool for Collateral Channel Guidewire Crossing Success from the Japanese CTO-PCI Expert Registry April 23, 2019 10.4244/EIJ-D-18-00993	

受付 No.	申請日	英語論文タイトル (仮)	論文趣旨	HP用著者※	データ種類	データ範囲	年次FUデータ	提供日	状況	最終状況確認日
17	2018/6/26	Appropriateness of staged percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion: Cross-sectional study with Japanese CTO Expert Registry	慢性完全閉塞病変 (Chronic Total Occlusion: CTO) は3か月以上の冠動脈の閉塞と定義され、冠動脈造影を受ける患者におけるCTOの有病割合は18-52%とも報告されている。ランダム化比較試験 (Randomized control trial: RCT)によって裏付けられた結果ではないが、いくつかの先行研究ではCTOに対する経皮的冠動脈インターベンション (Percutaneous coronary intervention: PCI)の心血管イベントの減少やQuality of life (QOL)の改善に対する有効性が示されているが、いずれもCTOの有用性については賛否両論がある。また、従来CTO-PCIはnon-CTO PCIに比べて成功率が低く、合併症の発生割合が高いと言われていたが、近年のデバイスや技術の進歩によってCTO-PCIの成功率の改善および合併症の減少が報告されている。 また近年循環器領域では治療成績のみではなく、専門家パネルの合意に基づいて治療の適切性を評価するAppropriate use criteria (AUC) が用いられており、ACC/AHAは2009年にPCIに関するAUCを作成、2012年、2017年に改定を行なっている。AUCでは、自覚症状、虚血評価および内科的薬物治療の有無によってPCIの適切性を評価しており、日本においても多施設レジストリを用いたCTO-PCIの適切性の評価が行われており(2)、本レジストリにおいてもCTO-PCIの適切性を評価することは喫緊の課題であると考えられる。	関 知嗣 京都大学大学院 CA: 加藤 晴美	EDCデータのみ	2014～2017 追加 2014～2019	なし	2018/7/11 追加 2020/10/19	2020年9月、いったんまとめ報告 →徳増先生→田中先生と相談し、 データ追加し追加解析へ	
18	2018/7/27	Efficacy of intravascular ultrasound guided entry procedure for chronic total occlusion percutaneous coronary intervention.	CTO-PCIにおいて、Ambiguous entry に対する IVUS guided entry が推奨されているが (S. Harding, et al. A New Algorithm for Crossing Chronic Total Occlusions From the Asia Pacific Chronic Total Occlusion. J Am Coll Cardiol Intv 2017;10:2135-43) その効果を検討した研究はないと思われる。よって本研究によってその有用性 (仮説) を確認する。	永松 航 北摂総合病院 CA: -	EDC+web上での 画像閲覧	2017のみ 追加 2014～2016	なし	2018/8/6 追加 2019/9/9		

受付 No.	申請日	英語論文タイトル (仮)	論文趣旨	HP用著者※	データ種類	データ範囲	年次FUデータ	提供日	状況	最終状況確認日
19	2018/7/27	The procedura difference between histopathological patterns of reverse controlled antegrade and retrograde tracking technique.	Reverse controlled antegrade and retrograde tracking (R-CART)手技時、病理組織学的に Antegrade と Retrograde の guide wire(GW)位置は intima/subintimaで分類すると 4 パターンに分かれる。近年、R-CART 時の Knuckle wire technique (KWT)手技の提唱 (S. Harding, et al. A New Algorithm for Crossing Chronic Total Occlusions From the Asia Pacific Chronic Total Occlusion.J Am Coll Cardiol Intv 2017;10:2135-43)や、Directed R-CART(S. Matsuno, et al. Overview and proposed terminology for the reverse controlled antegrade and retrograde tracking techniques. Eurointervention 2018;14:94-101)の概念が提唱されている。しかしながら、病理組織学的差異における手技成功などの比較検討は十分になされていない。よって、本研究では先の 4 パターンでの差異を比較検討する（仮説：intima/intima と subintima/subintima は retrograde GW 通過成功に相違なし、Long lesion と calcification に subtintima/subtintima が多い）。	永松 航 北摂総合病院	EDC + DICOM データ ※DICOMデータ はすでに提供済み	2016のみ	なし	2018/8/6		
20	2019/1/7	Influence of the procedural cause of previously failed attempt on the strategy and initial result in repeated PCI for CTO lesion	Japanese CTO expert registry に参加している医師は、不成功例の再PCIを施行する機会も多い(2016年19%程度、2012-13 retrograde summit registryは10%)。初回治療の不成功原因、行われた手技（順行性のみ、逆行性も）、同一術者かどうか、再PCIのストラテジーや初期成績に与える影響を検討する。	関口 誠 深谷赤十字病院	EDCデータのみ	2014～2017	なし	2019/1/20	取り下げ	2019/8/19
21	2019/3/11	The effectiveness of IVUS guided entry in CTO PCI.	血管造影で入口部が不明瞭な、いわゆるno stump CTOは成功率を低くする因子であることが知られている。また、欧米の algorithmと異なり、AP CTO club algorithmではこのようなno stump CTOにおいてはIVUSの使用を推奨している。このサブ解析では日本のexpert operatorによる手技における2014-2017において経時的なIVUSの使用率の推移と手技成功率の推移を解析し、IVUSの有用性を検討することが目的である。	下地 顕一郎 済生会宇都宮病院	EDCデータのみ	2014～2017 追加 2014～2018	2年後まで 追加 5年後まで	2019/3/18 追加 2019/8/20		
22	2019/8/19	The assessment of percutaneous coronary intervention strategy for stent related chronic total occlusion: Analysis of the Japanese CTO-PCI Expert Registry	DESの登場によりPCI後の再狭窄や再閉塞は減少したが、臨床の現場でステント関連のCTOに遭遇する機会が多い。Japanese CTO expert registry のデータでは、2014-16年は12.8%がステント関連のCTOにPCIを施行している。ステント関連のCT-PCIの初期成績およびストラテジーをステント関連でないCTO-PCIと比較検討する。	関口 誠 深谷赤十字病院	EDCデータのみ	2015～2018	なし	2019/8/28		

受付 No.	申請日	英語論文タイトル (仮)	論文趣旨	HP用著者※	データ種類	データ範囲	年次FUデータ	提供日	状況	最終状況確認日
23	2019/8/19	Impact of occlusion types on outcomes and strategies of percutaneous coronary intervention for stent related chronic total occlusion: Analysis of the Japanese CTO-PCI Expert Registry	DESの登場によりPCI後の再狭窄や再閉塞は減少したが、臨床の現場でステント関連のCTOに遭遇する機会は多い。（Japanese CTO expert registry のデータでは、2014-16年は12.8%がステント関連のCTOにPCIを施行している。）ステント関連のCT-PCIにおいて、ステントの閉塞形態（ISS: in-stent segment, BPS: beyond proximal stent segment, BDS: beyond distal stent segment, BBS: beyond bi-stent segment）によるPCIの成績やストラテジーの違いを検討する。	関口 誠 深谷赤十字病院	EDCデータのみ	2015～2018	なし	2019/8/28	【成果公表完了】 Occlusion Patterns, Strategies and Procedural Outcomes of Percutaneous Coronary Intervention for In-Stent Chronic Total Occlusion EuroIntervention 2021; Online publication date: 16 March 2021	
24	2019/11/7	Assessment of appropriate strategy of CTO-PCI to prevent contrast induced nephropathy.	CTO-PCIは治療戦略が洗練化され、手技時間の短縮などシンプルなものになりつつある。しかし、他病変のPCIと比べると造影剤量が多くなりえてCIN発症の懸念はいまだに残り続けている。本研究では、CTO-PCIの腎機能に及ぼす影響の現状を述べるとともに、CINを避けるためのbest strategy、とりわけ腎機能障害の進んだ患者に対する選ぶべきstrategyを考案するものである。	海老澤 聡一郎 信州大学 CA: 田中 裕之	EDCデータのみ	2014～2018	なし	2019/11/22		
25	2019/12/6	Poor Distal Vessel Quality is an Independent Predictor for the Wire Manipulation Time within 30 min on Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion	J-CTO scoreではEntry shape, Calcifiacion, Bending, Occlusion lengthおよびretry lesionが予測因子として挙げられている。しかし、CTO-PCIにおいてしばしばdistal run offが悪いことによりwire通過に難渋することが経験される。Expert registryに登録されている患者様を対象に、主に手技時間との関係、technical outcomの評価を行う予定。また、scoring systemに加えていいかどうか回帰分析を行いJ-CTOスコアを改める必要があるかどうかを検討	落海 祐介 名古屋ハートセンター CA: 土金 悦夫	EDC+web上での 画像閲覧	2014～2018	なし	2019/12/19		
26	2019/12/23	Comparison of procedural results, complications, and clinical outcomes for chronic total occlusion according to the presence of low ejection fraction: analysis of Japanese CTO Expert registry	CTOに対するPCIはretrograde手技の確立により成功率が向上している。一方で低左心機能患者では、donor arteryの虚血やretrograde channelの損傷などが問題となることが多い。本研究では、CTO Expert registryのデータをもとに左心機能低下(EF<40% or 30%)の有無で、retrogradeの選択を含むstrategyの違い、初期成功率の違い、合併症頻度の違い、さらに中長期の成績（可能であればEFの改善具合）を検討する。	小林 範弘 済生会横浜市東部病院 CA: 伊藤 良明	EDC+web上での 画像閲覧	2014～2016 →2014～2015に 変更	1年後FUまでに 変更		2019年末に承認されたが動きなく、2020/5/28問い合わせ → No.30に変更	2021/2/4
27	2020/5/19	Angiographic scoring system for predicting GW crossing in retrograde CTO-PCI	Intention-to-treat解析でprimary retrogradeを選択したCTO-PCIでchannel通過した症例を対象として、CTO病変のGW不成功因子を解析し、retrograde approachによるCTO病変のGW通過予測スコアを作成する。	田中 裕之 倉敷中央病院	EDCデータのみ	2014～2019	なし	2020/9/15	山本先生のサブ解析（CTOスコア）と重複確認→問題なしとして実施	
28	2020/12/2	Incidence, risk factors and clinical consequence of coronary perforation during chronic total occlusion angioplasty	近年のガイドワイヤーの開発や手技の確立に伴いCTOに対するPCIの成功率は上昇している。一方で非CTO病変に対するPCIと比較して周術期合併症の発生率が高いことが報告されており、その中でも冠動脈穿孔は重篤な転帰となり得る合併症の一つとして挙げられる。本研究では当registryデータから冠動脈穿孔の頻度、臨床転機およびリスクモデルを作成する。	三浦 勝也 倉敷中央病院 CA: 田中 裕之	EDC+web上での 画像閲覧	2014～2019	1年後まで	2020/12/23		

受付 No.	申請日	英語論文タイトル (仮)	論文趣旨	HP用著者※	データ種類	データ範囲	年次FUデータ	提供日	状況	最終状況確認日
29	2020/12/21	Machine Learning for Prediction of Technical Results of Percutaneous Coronary Intervention for Chronic Total Occlusion	J-CTO scoreの原著論文にも示された通り、CTO-PCIの手技結果予測モデルは、その技術の進歩に伴ってupdateすべきである。そしてデータから結果を予測するモデル自体もまた進歩している。今回CTO-PCI手技結果の予測における機械学習モデルの有用性を検討する。	仲地 達也 済生会横浜市南部病院 CA: 山根 正久	EDCデータのみ	2014～2019	なし	2020/12/28		
30	2021/2/4	Procedure results and in-hospital outcomes after percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion in patients with left ventricular dysfunction: analysis of Japanese CTO Expert registry	CTOに対するPCIはretrograde手技の確立により成功率が向上している。一方で低左心機能患者では、donor arteryの虚血やretrograde channelの損傷などが正常心機能患者に比べ問題となることが多い。本研究では、CTO Expert registryのデータをもとに左心機能低下の有無で、retrogradeの選択を含むstrategyの違い、初期成功率の違い、合併症頻度の違い、さらに院内アウトカムの違いを検討する。	小林 範弘 済生会横浜市東部病院 CA: 伊藤 良明	EDC+web上での 画像閲覧	2014～2018	なし	2021/2/15		
31	2021/4/5	Examination of features and strategy of ostial chronic total occlusion	【背景】 デバイス・技術の進歩に伴いCTOに対するPCIの手技成功率は飛躍的に向上した。しかし、ostial CTOに対するPCIは、いまだチャレンジングなCTO病変であり非常に難易度が高い。これまで、ostial CTOに対する報告は症例報告がメインであり、十分な解析がなされていないのが現状である。 【目的】 ①non-ostial CTOと比較して手技成功率・合併症発生率に違いがあるか検討する。 ②Guiding catheter、Guidewireの選択など含めたostial CTOに特異的なStrategyを考える必要があるのか検討する。	新関 武史 公立置賜総合病院 CA: 土金 悦夫	EDC+web上での 画像閲覧	2014～2019	5年後まで	2021/4/27		
32										
33	2021/5/24	A novel risk score for predicting periprocedural complications in the retrograde approach to CTO-PCIs	CTO-PCIのアルゴリズムの普及により、retrograde approachの適応やタイミングが標準化されつつある。しかしながらretrograde approachは合併症が高率であることも報告されている。本レジストリーからretrograde approachを施行した際の合併症のリスクスコアを算出し、アルゴリズムに沿ったretrograde approachの適応を症例毎に検討できるようにする。	関口 誠 深谷赤十字病院	EDC+web上での 画像閲覧	2015-2020	なし	未提供		